

2021年度

# 札幌日本大学中学校

## 入学選抜試験

【A日程(1月7日)】

国 語

試験時間 60分

1. 指示があるまで、問題冊子さっしを開いてはいけません。
2. 答えは、解答用紙に記入してください。問題は、～まであります。
3. 試験監督かんとくの先生の指示に従って、試験を開始してください。
4. 試験の途中で、トイレに行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手をあげて試験監督の先生の指示を受けてください。
5. 試験開始の指示があってから、解答用紙に「受験番号」「氏名」を記入してください。
6. 解答用紙には、解答以外を記入しないでください。
7. 試験が早く終わっても、周囲を見回したり、横を向いたりしてはいけません。試験監督の先生から注意を受けることがあります。
8. 机の上には、筆記用具以外は置いてはいけません。風邪かぜなどにより、ティッシュペーパーを使用したい場合は、予め試験監督の先生あらかじに申し出てください。



次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字として数えること。

宇宙論から撤退して科学・技術・社会論に軸足を移した私だが、三〇年以上も宇宙論研究に没頭してきただけに、  
 ①何がしかのことは書き残しておきたい気になって、『観測的宇宙論への誘い』と題する本を執筆することにした。研究の楽しみとともに、論争となつていく諸課題について私なりの感想を記して後世の判断に委ねようとの思いからであった（それほど大げさなものではないけれど）。原稿を書き上げて編集者に渡した直後に、「これを紙の本と同時に電子出版にしてはどうでしょうか」と持ちかけられた。考えてもいなかった思いがけない申し出なので、  
 注1 躊躇していたら、追いかけて「宇宙に関する本には沢山のきれいな天体写真を使うことになるので、電子版の方が素晴らしい画像が使える迫力が出ますよ」と言われる。私は、「本の体裁が決まってから判断しましょう」と言つて、  
 注2 お茶を濁さざるを得なかった。そもそも人間は有機物でできている。有機物とはカーボン（炭素）を主体とした化合物だから、  
 ③紙もカーボンであり、本は紙に限るのである。その上、人間はアナログで物事を認識している。ある重要な事柄が何ページ何行目に書いてあったと覚えているのではなく、本の三分の二辺りのページのどこから三分の一くらいのところにあつたと記憶してページを繰り直すのが常であり、それを探し当てるのが楽しみなのである。ときには、線を引いたり片隅を折置んだりして目印にし、その部分だけを繰っては何度も読み返したりもする。そうすると妙に愛着が生まれて言葉が頭に染みこむというものである。

だから私は、シリコン製の電子画面とは性が合わない。辞書とか百科事典のような、その場限りの知識を得るには電子書籍は便利だが、考えたり想像したりしながらページを繰り、後戻りしたり飛ばし読みしたりしてから元に戻ってくる、というような読み方には電子本は不都合の上ないからだ。何しろシリコンは石頭だから融通が利かないこと夥しく、インターネットをしていても、  
 注2 痲癩を起こして放り出す始末である。だから、カーボン人間はシリコンとは折り合えない、電子出版なんて文化を貶めるもの、と考へてきたのだ。

しかし、実際に電子出版を勧められると、  
 ④少々動揺した。私の本はそう売れるわけでもないし、ましてや宇宙論の硬い本だから売れ行きが悪いのは目に見えている。この出版不況の時代に出版社は慈善事業をしているようなものである。

手軽に電子出版ができるなら、出版社の⑤を少しは立てられるかもしれない（私は出版社に対しては優しい人間なのである）。きれいな写真売り物にした本ではなく、書いている中身で勝負のつもりなのだが、写真が人目を惹いて電子本を手取る人がいればファンが少しは増えるかもしれない（本が売れて欲しいという色気もあるのだ）。というわけで、今どうしようかと悩んでいる最中である。

子どもの理科離れが話題になっているが、その根源には実は大人の理科離れがある。科学は難しく取っつきにくいのがその理由だが、それだけではない。科学は専門家にお任せして、その成果を利用するだけで満足している大人ばかりになったためだ。科学に無関心の大人であっても、ちょっと振り向いてもらいたい、そんな思いで本を書こうという気になる。ならば、電子書籍という形ではあっても、科学に近づくと人間が増えればいいことではないか。また科学の本には一般の文芸作品や論説本とは違った側面があるのではないかとつらつら考えてみた。

文学の作品はこれ一つしかないという意味で⑥だが、科学の本はその知見が次々と書き換えられていく運命にある。科学は積み上げで成り立っており、先人の仕事を乗り越えつつ、時代に制約された実験技術の下でとりあえずの結論を提示するしかないからだ。その意味で本の寿命は短く、たった数年前の出版なのに入手できなくなってしまう。⑦、私の本などは一年も経たないうちに店頭から姿を消すのが普通で、空しく裁断されて煙となっているのだろう。そう思えば紙の本であることに、少なからざる⑧罪の意識が生じる。単なる資源の浪費ではないかと。電子書籍であれば、ほんの少しのシリコンを占領するだけで済むばかりでなく、時間を超えて保存してくれるから空しさも帳消しになるかもしれない。記録媒体としての電子書籍は評価すべきなのだろう。

たまに古典と言われる科学の本も存在する。例えば、アインシュタインとインフェルトが書いた『物理学はいかに創られたか』（岩波新書）は七〇年を経てもなお読み継がれている。簡明にして真髓をつき、図版は少しだけだが含蓄に富む。ページを何度も行き来するうちに理解が深まり、いつ手にとっても新しい発見がある。⑨もはや黄ばんでしまった紙がいつそう私を招いているように思える。あるいは、学生時代に読んだ教科書は、そこに残された書き込みもあって苦闘した歴史が懐かしく思い出され、新鮮な気持を蘇らせてくれる効用がある。歴史を経た紙の本であればこそ、科学の古典として自分と重ね合わせることができるのだ。それは科学者の誰もが体験することであり、鮮烈な印象となって心に刻み込まれ、アナログ的に内容が頭の書庫に並べられることになる。学問の継承にはこのような体験が不可欠である。これらが電

子書籍となれば、果たして学問が血肉化するかどうか疑問を持ってしまふ。

とすると、記録媒体としての電子書籍（やたらに記憶が得意なシリコン頭にうってつけである）、自分の頭を鍛えるための紙の本（考え想像するカーボン頭に最も相応しい）という棲み分けができそうである。というより、それが必然の道のように思える。豆粒一つに百科事典全体が収まるような技術を利用しない手はないし、それこそが省資源となり文化の継承を確実なものとするからだ。辞書、辞典、読み捨て本、ノウハウ本などは電子書籍で十分その役を果たさう。それに対し、絵本、教科書、古典、哲学書などは紙の本であり続けるに違いない。むしろ始めは両方で出版し、生き残ったものだけが紙の本として継続されることになると考えられる。過渡期に本の選別が進むのである。そして二〇年先となれば、本の出版は様変わりしていることだろう。電子出版が当たり前となるのに対し（それは大事な本ではないことを意味する）、紙の本として出版できることが勲章となることだ。「せっかく価値ある本なのだから、是非とも紙の本として出版したい」と出版社が言ってくれるのを心待ちにする、なんてことを想像している。

少々皮肉っぽくなったが、新書戦争とやらで、どんな本が出ていくかさえわからなくなったご時世となって、本の選別が不可能になりつつあるのは事実である。「悪貨は良貨を駆逐する」のと同じ現象が生じ、むしろ出版界が自分の足を引っ張り合って共倒れの運命を歩んでいる気がする。それを是正する契機として電子出版が利用できれば、と思うのだ。思い切って電子書籍を専門とし、評判となったものを紙の本とするというふうに逆転させれば、本の概念も変わるのではないだろうか。

とはいえ、記録媒体としての電子出版について心配することがある。

⑩ 大きな録音デッキで磁気テープのリールを使っていたのがカセットテープになりCDとなったように、あるいはビデオテープがDVDになりブルーレイになっていくように、技術の進展はめざましいものがある。その結果、今時の装置は二〇年もすると使えなくなり、せっかくの記録媒体も無用の長物となりかねない。⑪ ⑫ ーTが栄えて、情報の記録が欠落していくのだ。その点、紙に書かれた記録が千年の歴史を刻んでいることを思えば、紙のたくましさとしぶとさを感じざるを得ない。やはり人間は紙とともに歩んできたし、知らず知らずのうちに紙を大事にする習性を身につけてきたのである。それはシリコン全盛時代になっても変わらないのではないかと思う。

（池内了「本の棲み分け」『本は、これから』（岩波書店）

注1 躊躇……あれこれと迷って決心がつかないこと。

注2 癩癩……感情をおさえきれずに、発作的に興奮して怒りを表すこと。

注3 駆逐……追い払うこと。

問一

①・⑦・⑩に入れるのに最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記

号を答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア かつて      イ やはり      ウ いかにも      エ ぜんぜん      オ ましてや

問二

——線部②「お茶を濁さざるを得なかった」、⑪「無用の長物」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

②「お茶を濁さざるを得なかった」

ア 断るしかなかった      イ ごまかすしかなかった

ウ 話題を変えるしかなかった      エ やんわりと返答するしかなかった

⑪「無用の長物」

ア めったやたらに長いもの      イ 急に様変わりするもの

ウ あるとかえって邪魔になるもの      エ 全く役割を果たせないもの

問三

③にあてはまる言葉を、「相性<sup>あいしやう</sup>」という語を必ず使って十五字以内で答えなさい。

問四 — 線部④「少々動揺した」とありますが、そのようになったのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 本の売れない時代に売れる可能性を持った電子出版を編集者から提示されたから。

イ きれいな写真を売り物にした本を売ることに對してかねてから抵抗感を覚えていたから。

ウ インターネットが嫌で放り出してしまいう人間だと知らずに編集者が電子出版を勧めてきたから。

エ 電子書籍の短所がわかっているのにもかかわらず、それに頼らざるを得ない自分に電子出版の話が来たから。

問五 「⑤を少しは立てられる」とありますが、⑤には身体の一部を表す漢字が入ります。その漢字を一字で答えなさい。

問六 ⑥に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 永遠      イ 流動      ウ 多様      エ 超越

問七 — 線部⑧「罪の意識」とありますが、なぜ「罪の意識」が生じるのですか。その理由を、本文中の語句を用いて七十字以内で答えなさい。

問八 — 線部⑨「もはや黄ばんでしまった紙がいつそう私を招いているように思える」とありますが、この一文の中で使われている表現技法を何と言いますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 反復      イ 擬人法      ウ 倒置法      エ 体言止め

問九 — 線部⑫「⑫が栄えて」とはここではどういうことですか。本文中の語句を用いて具体的に八十字以内で答えなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字として数えること。

保険の営業マンの僕（坂木司）、中学時代からの僕の親友で素人探偵鳥井真一、僕のお客さんの木村栄三郎さんは、動物園ボランティアの松谷明子さんに頼まれて、動物園の周りで起きている猫の虐待問題を解決しようとして調査していた。

①不意に、目の前に小さなビニール袋が出された。ジッパーで口の閉まるタイプのものだ。中には、なにやら茶色い粒と灰色の物体が入っている。

「これは……？」

「こんにちはセット」です。よかったら坂木さんもいかがですか」

ポケットサイズの袋を、松谷さんは皆に配った。

「私、動物が大好きだから、いつもこれを持って歩いてるんです。犬用と猫用があって、中身はドッグフードや煮干しです。お散歩中に出会った子たちと、これでコミュニケーションをとろうと思って」

「なあるほど。明子ちゃんは本当に優しいねえ」

②相好を崩して、安次朗さんがそれを受け取る。つられるように僕もそれを受け取ったが、鳥井は頑として拒否した。なぜだか栄三郎さんまで。

「俺はそういう形であいつらと関わる気はないんですよ。悪いね」

「そう……ですか」

きっぱりと言った栄三郎さんを、松谷さんは微妙な表情で見た。③悲しい風ではなく、理解できないといった雰囲気だった。

#### 《中略》

それから動物園へ行くまでの間に、僕はせめて鳥井の役に立てることはないかと考えたが、これといった案は思い浮かばなかった。

④、探偵自身が僕に頼んだことといえば、猫缶、つまりキャットフードの買い出しだけだった。外回りと称して栄三郎さんの家へ行くと、久しぶりに利明くんが来てこたつにあたっていた。中学校の制服のままとい



うことは、また授業をさぼってきたのかもしれない。

「よお、坂木さん。じいさんなら奥だよ。今出てくる」

相変わず髪かみの毛がつんつんと尖とがってはいるけど、彼の印象はずいぶんと柔らかくなった。利明くんもまた、鳥井の推理しゆばくによって呪縛じゆばくから解放された一人だ。

「寒いから早くこたつに入んなよ。ほら。ミケだっているし」

利明くんがこたつ布団をめくると、中には大きな三毛猫がいかに居心地いこち良さそうに目を細めている。

「あれ、でも栄三郎さんは猫が好きじゃないんじゃないか」

「へえ、なんで？ じいさん、かなりの動物好きだぜ。じゃなきゃこいつが毎日のようにここへ遊びにくるわけねえし」

⑤、動物園で栄三郎さんは松谷さんに勧められた餌えさのセットを断っていた気がする。台所から手を拭ぬぐいながら出てきた栄三郎さんにたずねてみると、意外な答が返ってきた。

「ああ、俺は動物が嫌いじゃないね」

「じゃあ、どうしてあのとときは」

僕の質問に、栄三郎さんはほんの少し顔をしかめる。

「なんとなく、気に入らなかつた。それだけさ。多分しんちゃんも同じ雰囲気を感じてたんだろう」

「気に入らない？ なんだよ、それ」

興味津々ふせいといった風情で、利明くんが身を乗り出した。その拍子にこたつ板がぐらりと傾き、湯のみが滑ってゆく。

「これ、落ち着かんか」

「わりわり。大人しくしてるから」

栄三郎さんに頭をはたかれて、利明くんは首をすくめた。栄三郎さんは手早く僕の分のお茶をいれながら、説明してくる。

「なんていうかな、卑怯ひきょうな話かもしれないねえんだが、俺はあの子みたいに、博愛主義注1にはなれないんだよ。けど、この近所に住む生き物ならなんとかしてやろうと思うね」

⑥「どうしてこの近所だけなんだ？」

大人しくすると言っていた舌の根も乾かぬうちに、利明くんが質問した。栄三郎さんはそれに苦笑しつつも、答える。

「俺は神様じゃないからさ」

「どういうことでしょう」

「責任、てことだよ。坂木さん、あんたは何か事件や事故があったとき、しんちゃんと自分の家族以外の人間に手を回せるかね？」

いきなり質問を返された僕は、とっさに災害の現場などを思い浮かべてみた。瓦礫がれきの中にいる鳥井。そして家族。命に順番なんてつけられないし、考えたくはないけど。

「……きつと、他の人は後回しになるでしょうね」

「そういうこと。人間、本気で責任を持って抱え込めるものごとなんて両手の指の数くらいしかない俺は思うのさ。動物も同じ。どんなに可哀相かわいそうでも、俺にはあその猫まで抱え込むことはできない。近所に住んでるこいつの分くらいなら、責任を取れるけどな」

こたつから首を出したミケの頭を撫なでながら、利明くんは口をとがらせた。

「なんだか冷てえの。栄三郎さん、もっとアツいじいかと思ってたのに」

「ならお前さん、自分の小遣いで何十匹もの猫を食わせていけるのかい？ 場所は？ 病気になったときの医療費は？」

⑦ 矢継ぎ早に質問を浴びせかけられ、利明くんは⑧ ぐつと言葉に詰まる。

A

「ちえ。そういう言い方すんのかよ。でも、できれば助けたいっていう気持ちる否定することはないんじゃないかねえの」

「それなりの覚悟がある人になら、わざわざこんなことは言わんよ。ただ、あの子にはそれがなかった。だからお断りしたのさ」

僕はこのとき、珍しく栄三郎さんの言葉に反感を覚えた。だって、利明くんの言うように⑨ 「そうしたい気持ち」だけでも大切なんじゃないかと思ったからだ。

B

「坂木さん、納得いかないって顔してるね」

「え？ いえ、そんな僕は……」

考えていることがそのまま顔に出ってしまったのだろうか。うろたえる僕を見て、栄三郎さんがにやりと笑う。

C

「いいさ。坂木さんが納得できないのはよくわかるよ。あんたはそれでいいんだ」  
「いや、でも……」

言葉に詰まった僕の目の前で、利明くんが手をひらひらと振った。

D

「いいじゃん、意見が違ってたって。俺、最近わかったんだ」

「何が？」

「違って当たり前なんだな、っていうこと。だって」  
⑩ 人間はいないんだからさ、  
⑪ こと考えるのが  
⑫ なんだよ。それを  
⑬ 同じにしようとするから、いじめとか仲間外れが起こるんだよな。違うなら違うで、話し合っ  
て近寄ればいいだけのことでさ」

なんだか、利明くんがいきなり大人になったような気がした。彼は、僕がまだ越えられないでいた壁をやすやすと越えていたのだ。僕はなんだか、大人のくせに利明くん置いて行かれたような気分になる。  
⑭ 、僕はまだ人と違って  
しまうことを怖がっているからだ。  
(坂木司『動物園の鳥』(東京創元社))

注1 博愛主義……全ての人々を広く平等に愛そうとする考え。

問一 ——線部①「不意に」、②「相好を崩して」、⑦「矢継ぎ早」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

①「不意に」

ア 突然

イ 強引に

ウ あっという間

エ 気づかないうちに

②「相好を崩して」

ア 嫌な顔をして

イ 楽な姿勢になって

ウ なれなれしくして

エ にこやかな表情になって

⑦「矢継ぎ早」

ア 素早く行うこと

イ 交代して行うこと

ウ 続けざまに行うこと

エ まっすぐ進むこと

問一 — 線部③「悲しい風ではなく、理解できないといった雰囲気だった。」とありますが、松谷さんはどのようなつもりで『こんにちはセツト』を持ち歩いているのですか。答えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア もう二度と会わないかもしれない猫や犬だが、せめて自分にできることを考え抜いた結果、えさをあげることは必要なことだと考え、持ち歩いている。

イ 散歩中に出会った犬や猫とは、まずは仲良くなりたいため、そのためにえさをあげることは必要なことだと考え、持ち歩いている。

ウ 出会ってこれから長い付き合いになるであろう犬や猫にえさをあげることは、今後の関わりを考えても必要なことなので、必要なことだと考え、持ち歩いている。

エ えさをあげて犬や猫と仲良くなっていくことは、仕事を行う上でとても重要なことなので、必要なことだと考え、持ち歩いている。

問三 — ④・⑤・⑭に入れるのに最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア しかし      イ だから      ウ なぜなら      エ しかも      オ もし

問四 — 線部⑥「どうしてこの近所だけなんだ？」の質問の答えとなる、次の文の□に入れるのに最も適切な言葉を、本文中から六字で抜き出して答えなさい。

近所の猫だけなら、□から。

問五 — 線部⑧「ぐっと言葉に詰まる」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 思いもよらないほどひどいことを言われ、怒りで頭の中が真っ白になって言葉にならなかったから。  
 イ 言いたいことがたくさんありすぎて、何から言ったらよいかわからず言い返すことができなかったから。  
 ウ 急に多くの質問をされて、何からどのように答えたらよいかわからなくなり、考えこんでしまったから。  
 エ 言われたことが全部もつともなことだと思えるので、反論したいが何も言い返すことができなかったから。

問六 本文には、次の一文が抜けています。この一文を入れるのに最も適切な箇所を、本文中の 















 の中から一つ選び、その記号を答えなさい。

そう、たとえ何の力にもなれなかったって、優しい心は必要なんだ。

問七 ——— 線部⑨「そうしたいい気持ち」の「そうしたいい」が指し示す内容を、本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問八 



・



・



・



 に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- |   |      |      |      |        |
|---|------|------|------|--------|
| ア | ⑩ 同じ | ⑪ 違う | ⑫ 当然 | ⑬ 無理やり |
| イ | ⑩ 違う | ⑪ 同じ | ⑫ 必然 | ⑬ 急に   |
| ウ | ⑩ 同じ | ⑪ 違う | ⑫ 必然 | ⑬ 急に   |
| エ | ⑩ 違う | ⑪ 同じ | ⑫ 当然 | ⑬ 無理やり |

問九 ——— 線部『こんにちはセット』について、栄三郎さんが断ったのはなぜですか。本文中の語句を用いて八十字以内で答えなさい。

# 下書用紙



